

未来を拓く科学大好き教育 通信

郷土博物館 特別研究員

指導課 特別指導員

岩波 英一

「理科室のおじさん」を尋ねて

その3 日立市立日高小学校

日立理科クラブ・上野博孝さん



日高小の「理科室のおじさん」上野さんは、定年になってから家庭菜園に熱中していたということです。そのおかげで、今回の理科室のおじさんとして、ジャガイモやホウセンカの教材を準備することは、得意分野として栽培できたと話していました。また、5年の「メダカのたんじょう」の中で、めだかの餌になるミジンコを確かめる教材で、採取するミジンコがいなくて困ったということです。

そこで、来年のために、どうしたらミジンコを集

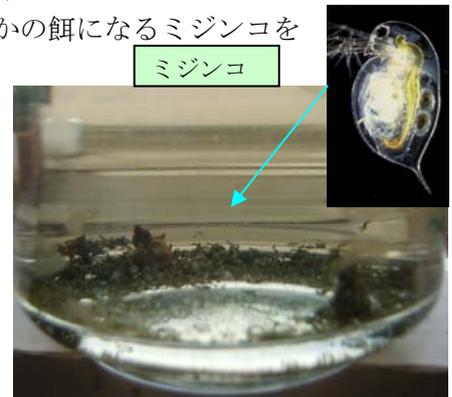
めることができるか、インターネット等で調べて研究したそう

です。東海村にある家庭菜園に手押しポンプ井戸があり、その水を溜める貯水槽の中にたくさんのミジンコを発見し、3つの容器に入れて飼うことにしました。

学校に持参していただいた容器を覗きますと、300匹～400匹のミジンコが元気に泳いでいるのが肉眼でも確認できました。上野さんに伺いますと、ミジンコは農薬や温度変化、水質状態にとっても敏感で、あっという間に全滅してしまうということでした。ミジンコの餌は、ドライイースト菌や青汁の粉末です。それを耳かき一杯程度毎日与えて、水質の状態などを観察しながら育てているということです。

来年のために、稲の切り株をもらって保管し、春になったら、水に浸して稲の切り株に付着している微生物の卵を孵化させて増やし、子どもたちに提供したいと張り切っていました。上野さんは、日立専修学校の電機分野を担当する指導者として勤務していました。指導者の立場で子どもたちと関わっていたので、小学校の理科室のおじさんとしての勤務も苦にならず、とてもやりがいのある仕事と目を細めておりました。専門分野と違った面でも、子どもたちのために、時間をかけて準備をいただいていることにとても感謝したいと思います。

ミジンコ



日立電線工場からの寄贈品が理科室の掲示物として展示